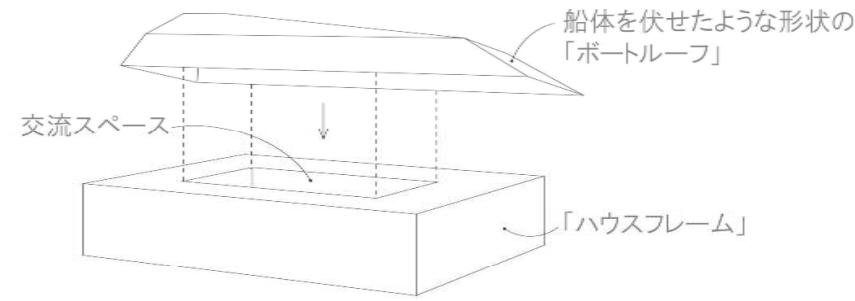
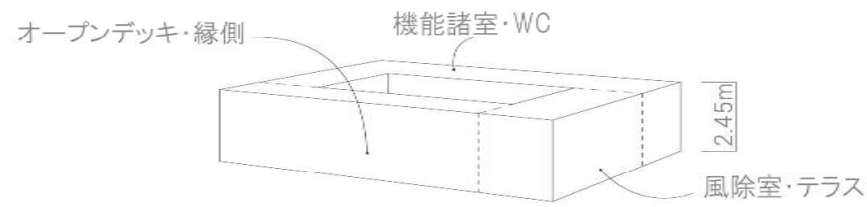


舟会拠 — 「ポートルーフ」を持つ交流拠点施設—



シンプルな木架構で“口の字”型にスペースをつくり（「ハウスフレーム」と呼びます）その中に、開放感ある様々な居場所、人をもてなすための諸機能を格納します。

「ハウスフレーム」で囲んだ中央部分を、施設の主空間“交流スペース”にします。“舟のような屋根”を覆いかぶせ、集いの中心をやさしく包み込みます。

居心地良いたくさんの居場所に使いやすい機能諸室、そして、島の歴史をさりげなく表現する屋根・天井をもつ、観光客・島民双方に親しまれる拠点となります。



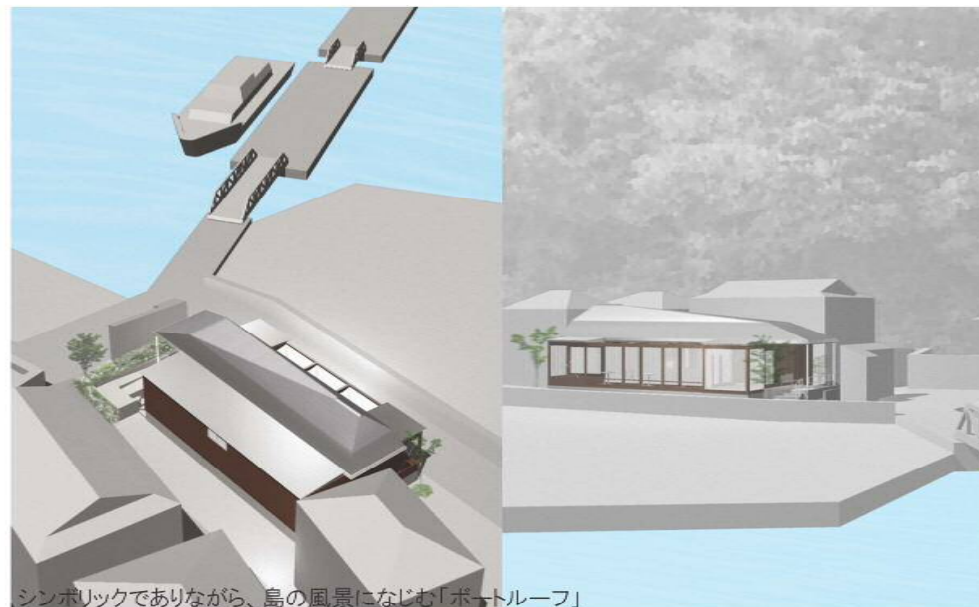
住宅スケールの「ハウスフレーム」とシンボリックな「ポートルーフ」による、日常感・非日常感をあわせ持つ交流拠点。「ハウスフレーム」内には、気持ちの良い開放的な居場所がたくさん用意されています。



木造和船をイメージさせる船底天井に包み込まれた交流スペース。観光拠点に相応しいアトラクティブさと、島民の普段使いに相応しい親しみやすさが共存します。



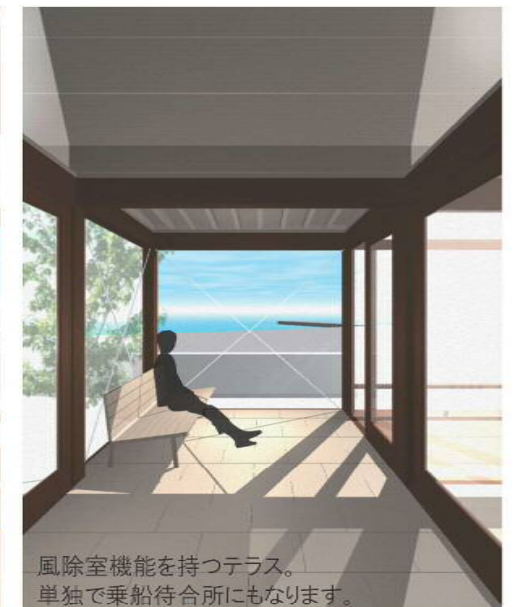
在来軸組構法による「ハウスフレーム」の中央を、「ポートルーフ」が覆う構成。「ポートルーフ」は複雑に見えて、実は施工性を考慮したシンプルな形状となっています。



シンボリックでありながら、島の風景になじむ「ポートルーフ」



交流スペースと連続する便利な小上がり。

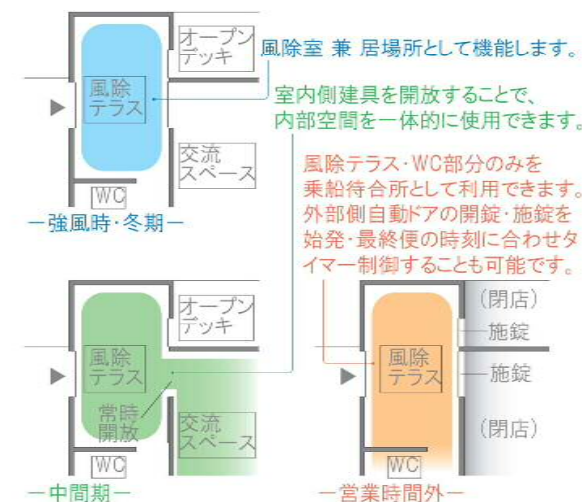


風除室機能を持つテラス。単独で乗船待合所にもなります。

■観光客、島民とも気軽に寄り付きやすいよう
屋内・屋外に様々な居場所を用意します。



■「風除テラス」
強風時を考慮し、小規模施設ながら風除室を設置しますが、あえて少し広く、テラス風にしつらえ、居場所の一つとして機能させます。
また、既存待合所の将来撤去も考慮し、施設営業時間外も「風除テラス」が単独で乗船待合所として機能できる計画とします。



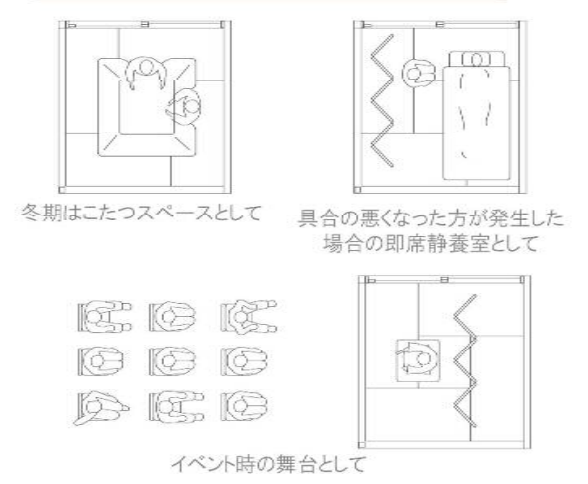
■「ポーチテラス」
訪問者を歓迎する広めのポーチ。
将来的に隣地既存待合所が撤去された際には、イベント時の屋外ステージとして利用することも考えられます。

■サイクリング(観光客)や外仕事(島民)などを経て入館する際に便利な、手や顔を思い切り洗える大きめの流し。あえて風除テラスに露出し、実用的かつ美しい、素朴な雰囲気にしつらえます。

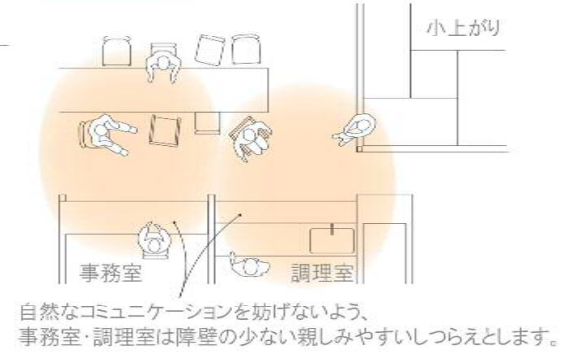
・構造・規模 木造平屋建
・延べ面積 91.92㎡
・建築面積 106.83㎡



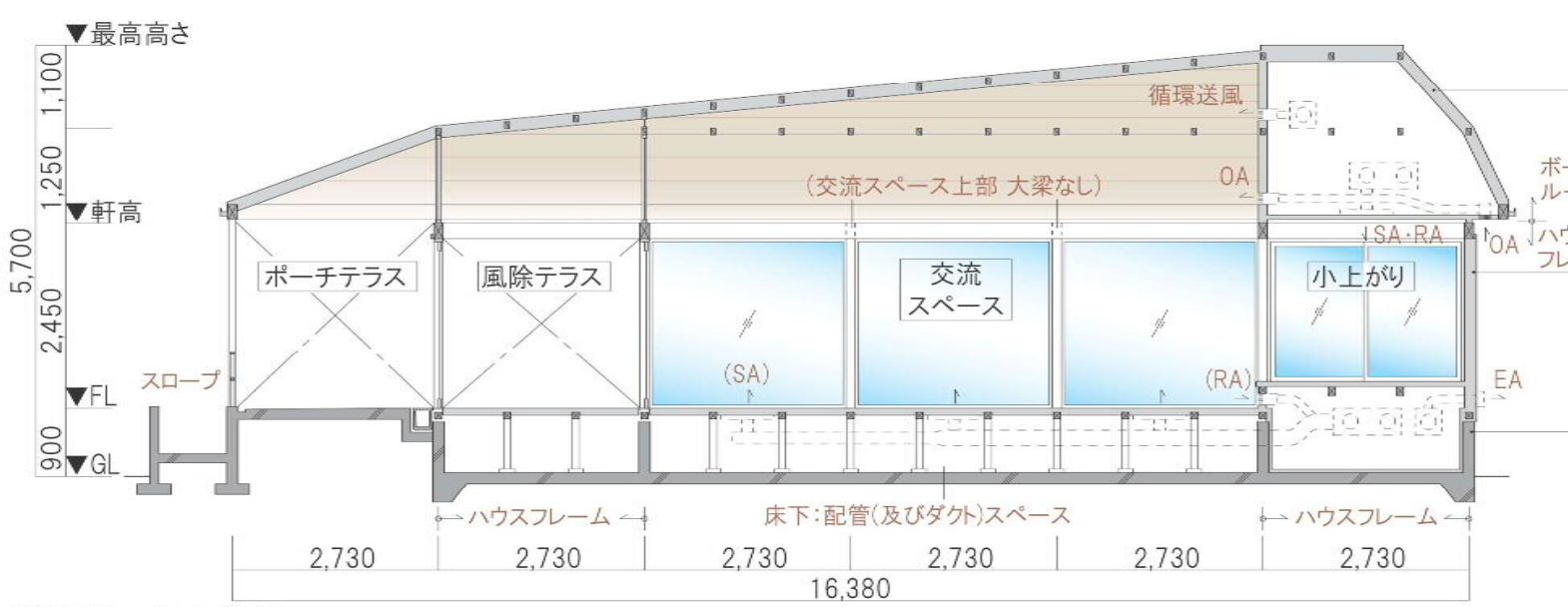
■縁台もある畳敷きの小上がり。
普段は気持ちのよい休憩場所として活躍するほか、静養室や舞台として機能するなど施設の使い勝手の幅を大きく底上げします。



■事務室や調理室も含めて、和気あいあいとした島民の拠り所を形成します。



■少人数でも運営しやすい管理諸室。
なお調理室は、非プロや飲食業初心者にも使いやすい、家庭用機器をベースとした計画を想定。(管理諸室は、運営実態により設計時に調整可能です。)



断面図A S=1:100

■「ポートルーフ」
木造和船を参考にした、セミモノコック状の構造。厚手合板と羽柄材下地による施工容易な構成。軒高レベルの大梁がないため、交流の場を包み込むような空間を実現できます。

■「ハウスフレーム」
四寸柱のシンプルな木造在来軸組工法フレームに、外装、サッシをシステムチックに取り付けるディテールとします。

■基礎
海への眺望を確保しつつ日常使用に無理のない寸法として、床レベルを周囲地盤面より900mm程度上げます。(動線上の高低差750mm程度。)
基礎はべた基礎を基本とし、床下は配管スペースとするほか、空調ダクトルートとしての活用も検討します。

■設備
主な空調換気機器は小上がりの天井懐または床下に格納します。四季を通じ快適に過ごせるよう、床吹出による居住域空調を検討します。

■外装 風雨・潮風から建物を守る素材、ディテールとします。
■内装 木をふんだんに使用したデザインとします。



断面図B S=1:100